

シビックテックによる 地域課題解決の先進事例調査

～市民・行政・企業の共創でつくる持続可能なシビックテックモデルの構築～

シビックテックとは？

市民（Civic）×テクノロジー（Technology）

市民（市民団体）、企業、大学等がアイデアを出し合い、テクノロジーを活用して、社会課題を解決する取り組み。

はじめに

東北圏においても市民（市民団体）が地域課題解決となるソリューション（アプリ等）を開発。



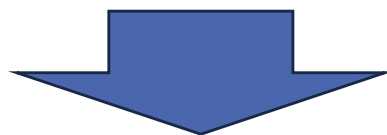
積雪時でも消火栓の位置が確認可能！

会津若松市消火栓マップ



調査の背景・目的

- 現在の日本では、人口減少・少子高齢化の進展、環境課題への対応、デジタル化の進展など社会環境が大きく変化。
- これまでは、地域課題解決を行政が担ってきたが、行政としても人材不足などによりこれまでのようなサービス提供が難しくなっている。
- そうした中、市民が行政や企業と連携し、I TやI o Tなどのデジタル技術を活用して、地域課題の解決や生活の利便性向上を目指す、「**シビックテック**」の重要性が高まっている。



シビックテックの先進事例を調査し、東北圏での活用方策を提言することを目的としている。

1. シビックテックの概要

シビックテックの歴史

2009年：アメリカでシビックテックが誕生。

世界初のシビックテック団体「Code for America」を設立。

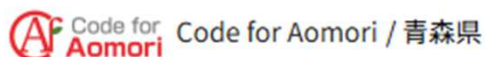
2013年：IT起業家である福島 健一郎氏が日本初のシビックテック団体
(5月) 「Code for Kanazawa」を設立。

2013年：後に国内最大級となるシビックテック団体「Code for Japan」
(10月) を設立。

1. シビックテックの概要

国内におけるシビックテックの広がり

- Code for Japanによる活動（ハッカソン等の開催、シビックテッカーのサポート）を通じて、国内でもシビックテックが広がりはじめ、各地域にシビックテック団体（ブリゲード）が設立。
- 現在では、約80のブリゲード（Code for XX）が活動を展開している。



Code for Akita / 秋田県秋田市



Code for SENDAI / 宮城県仙台市



コードフォー高岡 / 富山県高岡市



Code for Kanazawa / 石川県



Code for FUKUI / 福井県



Code for Shiogama / 宮城県塩竈市



Code for Niigata / 新潟県新潟市



コード・フォー・トヤマシティ / 富山県富山市



Code for Noto / 石川県能登地域



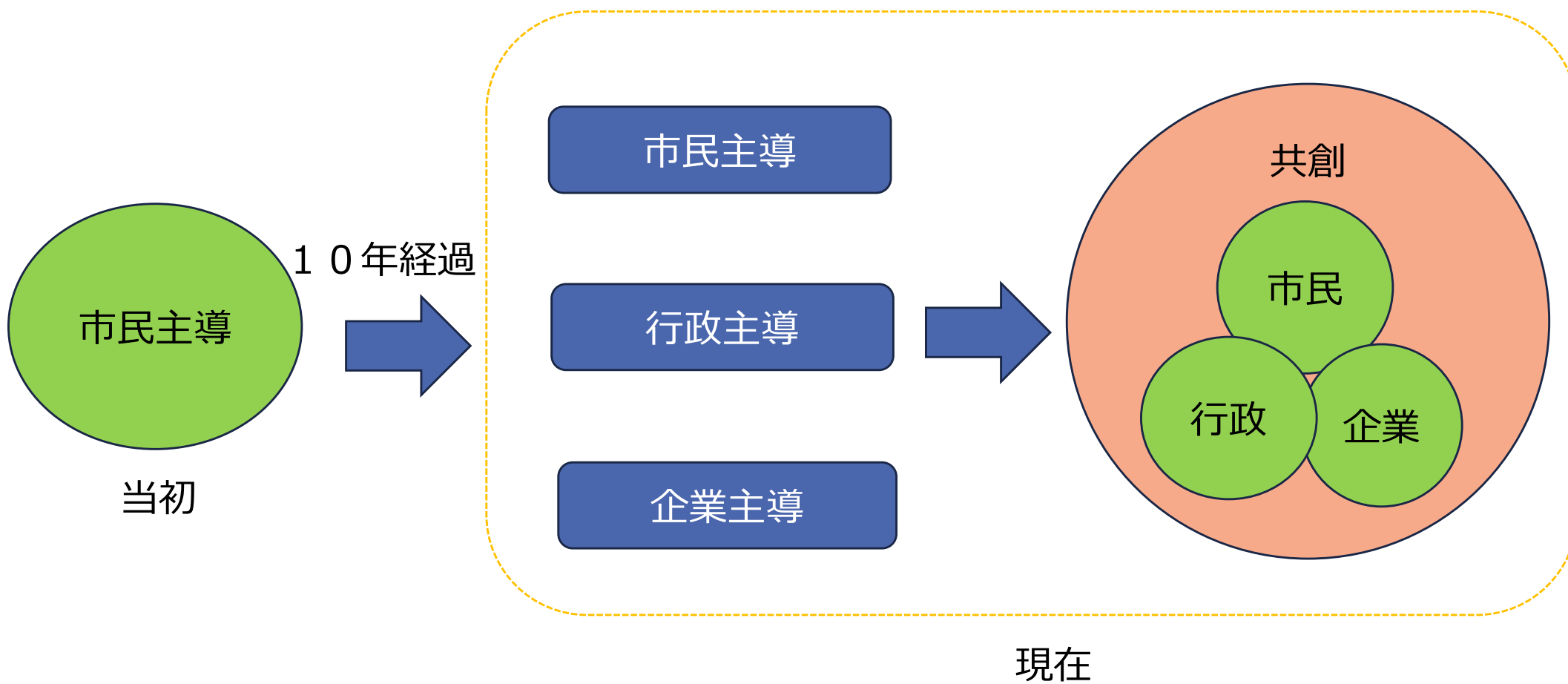
Code for NAGAREYAMA / 千葉県流山市

1. シビックテックの概要

東北圏におけるブリゲード

ブリゲード名	設立年	取り組み（例）	取り組み概要
Code for AIZU	2013年	会津若松市消火栓マップ	会津若松市の消防水利位置データを使用し、PCやスマートフォン上のGoogle Map上に周囲の消火栓や消化水槽を表示するWebアプリ。
Code for Shiogama	2014年	渚の妖精ぎばさちゃん	ハッカソンにて生まれた、地域振興のためのキャラクター（プロジェクト）。
Code for Akita	2017年	「秋田竿燈まつり」演技場所のオープンデータ化	秋田の「竿燈まつり」の演技場所を確認できるアプリ。
Code for Aomori	2018年	NFTを活用したデジタル感謝状	社会貢献活動の成果や評価を明確に可視化する手段として、デジタル感謝状を発行する取り組み。
Code for YAMAGATA	2018年	WEBライター養成講座	自治体主催のWEBライター講座を支援するもの。
Code for SENDAI	2019年	せんだい保育園マップ	仙台市内の保育所（認可・認可外/無認可）、幼稚園情報が地図上に表示されるマップ。
Code for IWATE	2020年	Civic Hack Night Iwate	特定のテーマを設けず自由に議論しあうミートアップの場

2. 日本におけるシビックテックの変遷



2. 日本におけるシビックテックの変遷

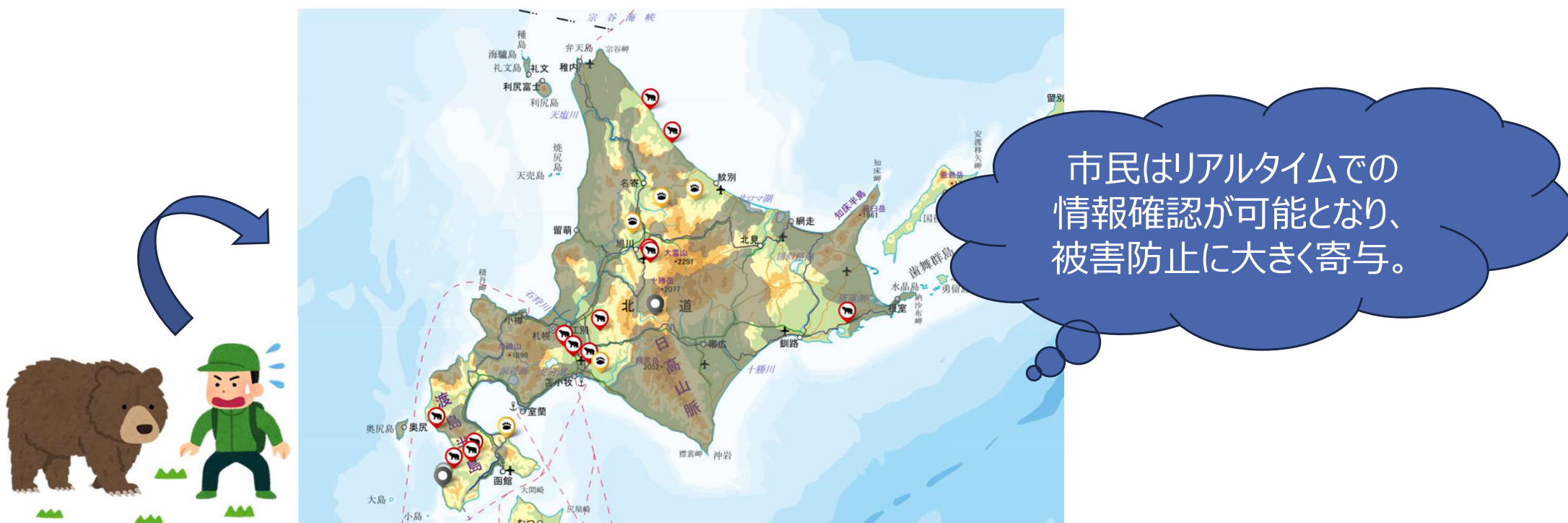
日本における先進的な事例を調査し、現在のシビックテックの形態を独自に分類。

形態	名称	特徴	事例（ヒアリング調査先）
市民主導	ソロ型	市民が単独で地域課題に取り組み、個人のアイデアや技術を活用し、地域の課題を解決する形態。	ひぐまっぷ（大阪府）
	リビングラボ型	市民が企業や大学、行政などと連携し、実際の生活環境で課題解決のための取り組みを行う形態。	会津の暮らし研究室（会津若松市）
行政主導	オープン型	特定の課題を設定せず、広く市民や企業からアイデアや技術を募り様々な社会課題に対応する形態。	デジテック for YAMAGUCHI（山口県）
	プロジェクト型	特定の地域課題を明確にし、その解決に向けて行政と市民、企業が協力して取り組む形態。	シビックテックチャレンジ for YAMAGUCHI（山口県）
企業主導	プロダクト型	企業が主導して特定の地域課題を解決するためのツールやアプリケーションを開発する形態。	PoliPoli（東京都）
	スマートシティ型	企業が主導してICTを活用し、都市・住民全体の課題を包括的に解決するまちづくりを行う形態。	SAGAスマート街なかプロジェクト（佐賀市）

3. シビックテックの先駆的な事例

事例① ひぐまっぷ (市民主導/ソロ型)

ダップスタジオ合同会社の川人隆央氏がヒグマの出没情報を可視化・共有するツールを開発。



3. シビックテックの先駆的な事例

事例② 会津の暮らし研究室（市民主導／リビングラボ型）

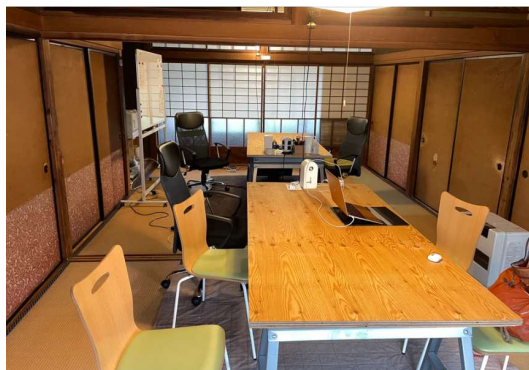
会津の暮らし研究室では、リビングラボといった手法を取り入れ、シビックテックの活動を展開。

【キーパーソン】

藤井靖史氏（Code for AIZU創設者）



【活動拠点】AIOI△（あいおいデルタ）



住民や会津大学の学生
とともに地域の新たな
価値を創出。



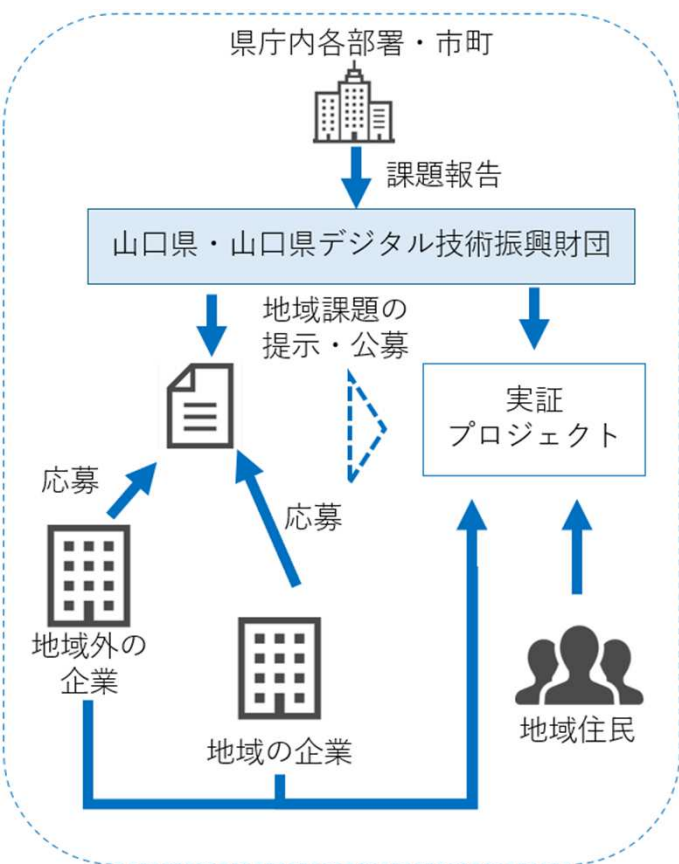
事例から見る課題

今後もシビックテックを持続可能にするために後継者の育成が重要

3. シビックテックの先駆的な事例

事例③ シビックテックチャレンジYAMAGUCHI（行政主導／プロジェクト型）

企業・行政・県民が共同でデジタル技術を活用して地域や行政の課題を解決するプロジェクトを展開。



市民サービスの向上、
スタートアップや企業の
新たな事業展開の推進。

課題概要
聴覚障害者や高齢者など、聴力の弱い方との窓口での相談対応において、相互の意思疎通を円滑にするツールをつくり、聴覚障害者や高齢者がストレスなく相談出来るようにしたい。

課題・困りごと

- ▶高齢化等により聴力の弱い方や、外国語を扱う方の行政窓口来庁が増加
- ▶相手の状況を理解できなければ、適切な支援制度を案内することが困難
- ▶筆談では簡潔で的確な文章を吐き出すことができず、必要な情報を正しく、的確・迅速に伝えることが困難

取組の概要
リアルタイムで発話内容を表示するシステムを開発

向上した利便性等

会話内容を文字で認識することが可能になった

- 職員の発話内容をリアルタイムで透明ディスプレイ上で確認することにより、職員の顔と文字を見ながらスムーズにコミュニケーションが取れるようになった
- 職員が日本語で話した内容を、日本語・外国語で同時に確認でき、お互い、翻訳の心理的な負担がなくなった

《利用イメージ》

- ①職員が説明
こんにちは、どのようなご用件ですか？
- ②話した内容が文字で表示され、見ながらコミュニケーション

県内自治体での実装数 **5**

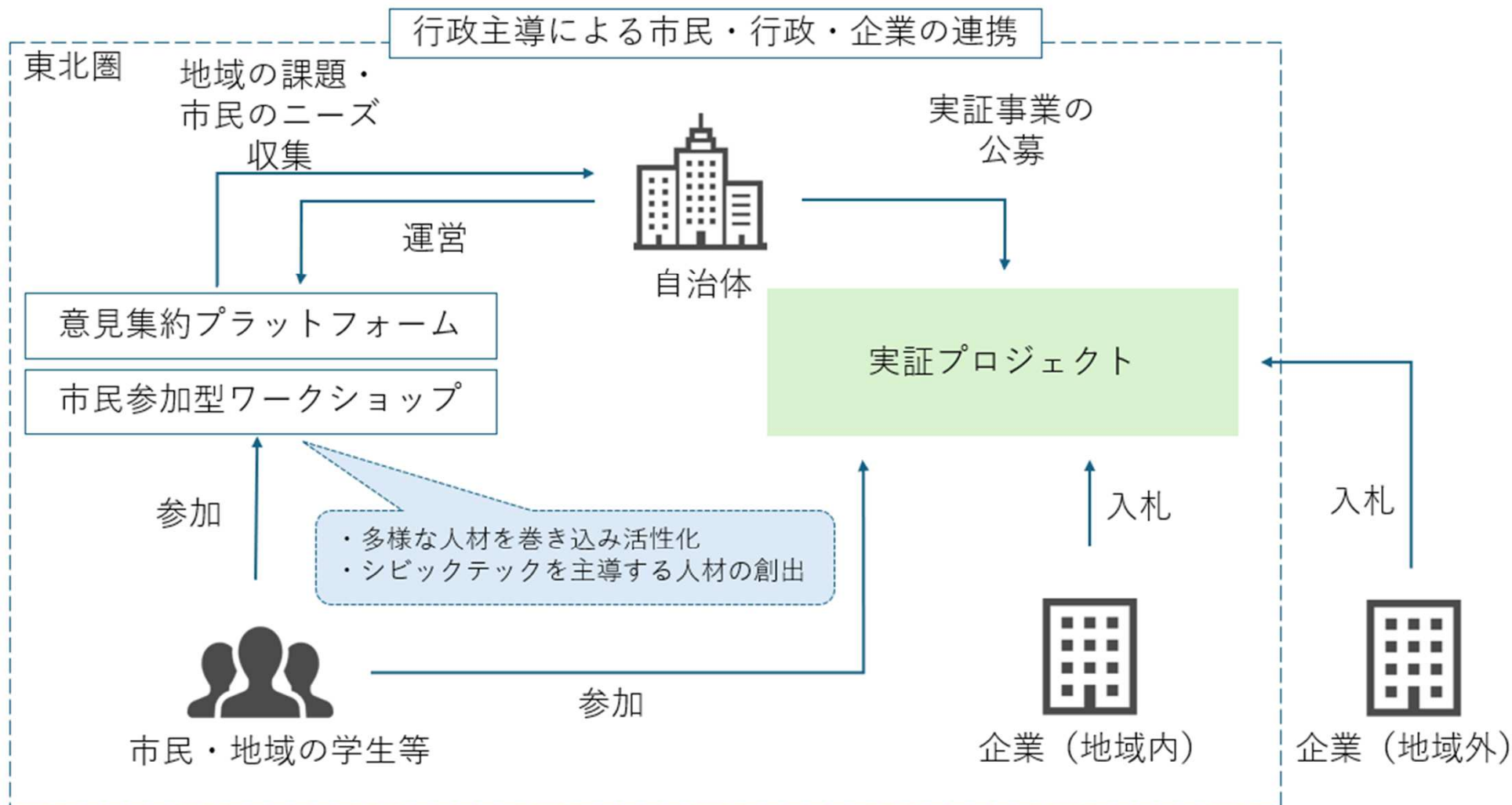
※県内企業等においても、実装事例や、今後の導入に向けた問い合わせあり

事例から見る課題

市民ニーズに適したサービス提供をするためには、市民の関与が重要

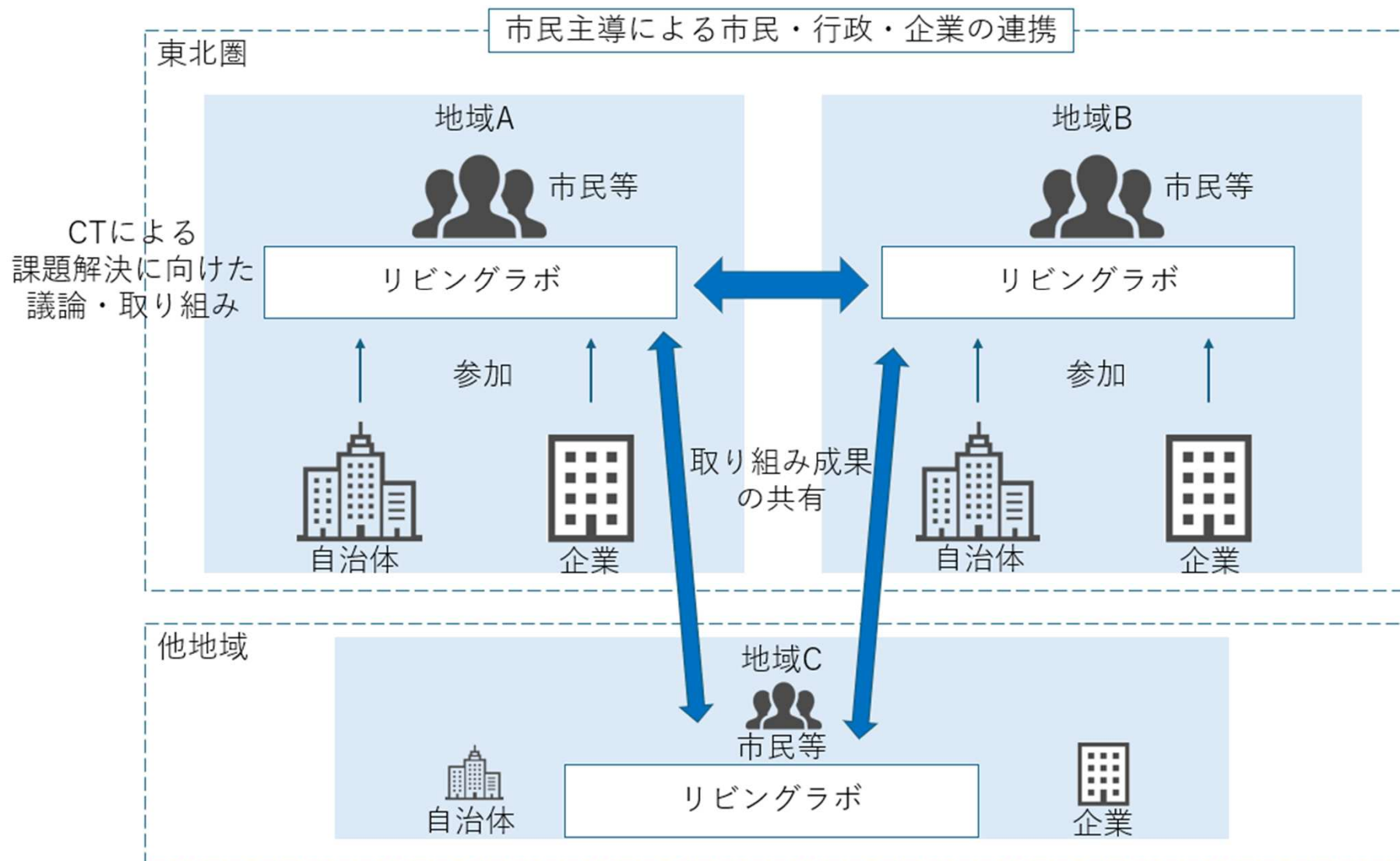
4. 東北圏における持続可能なシビックテックモデル

短中期で期待されるシビックテックモデル（今後2～3年目）



4. 東北圏における持続可能なシビックテックモデル

長期的に期待されるシビックテックモデル（今後4年目以降）



5. シビックテックによって実現する将来の東北の絵姿



最後に

本調査を通じて感じたこと・・・

市民が参加できる
プラットフォーム運営

多様な人材により
豊富なアイデアを創出



地域の大学生や
高校生を巻き込む
(人材育成)

公益財団法人
東北活性化研究センター
主任研究員 佐藤 司

〒980-0021

仙台市青葉区中央2丁目9番10号セントレ東北9F

TEL:022-222-3394

FAX:022-222-3395

E-mail: t-sato@kasseiken.jp



公益財団法人

東北活性化研究センター

<https://www.kasseiken.jp/>

